

I

問1

本問は、①有色人種と貧困層の双方ともに、②環境汚染が酷い地域に居住する傾向が高く、③それはそうした地域に汚染を引き起こす産業が計画的に建設されていることの結果である、という3つのポイントを問う英文和訳である。①と②のポイントは比較的正確に訳されていたが、単に「汚れた」地域といった解答、また likely to live を「住みそう」といった予測の意味に訳した解答は減点した。ポイントの③に関しては、「有色人種や貧困層だから汚染を引き起こす産業が建設された地域に居住する」という意味にとれる解答が目立ったが、これらは「計画的な建設」と「その結果である」という点が不足しているため減点した。また、文末の in these communities を単に「コミュニティ」「共同体」「地域社会」と訳した解答が多かったが、これでは「誰が」暮らす場なのか不足しており、これも減点した。

問2

本問は正答率が高かった。「environmental inequality（環境に関する不平等）」と同じ内容を示す語句は、それをより詳しく述べた unequal impacts of environmental exposures であるが、exposures を含めていない解答は文法的に不正解である。また、main cause of environment inequality という解答も散見されたが、これは不平等の主要因という意味であり不正解とした。

問3

the results は、アメリカにおける環境に関する不平等の原因をアメリカの人々がどのように理解しているかについての社会調査の以下の回答結果を指す。①黒人はより環境汚染にさらされやすいが、この不平等は不当であると感じているのは回答者の1/3に過ぎない、②回答者の1/3は、黒人、ヒスパニック、貧困層は環境的不平等にさらされているが、それは正当であると感じている、③ほとんどの回答者は、汚染の影響を受けた人に補償をするなど、環境的不平等を改善する政策を支持している。

①と③のポイントは比較的しっかりと理解されていたが、②に関しては「不当である」と逆の意味にとった解答が散見された。また、fair を「平等」と訳した解答が少なからず見られたが、公正・公平と平等は意味が異なる。

加えて、文中の調査の質問事項の方を挙げた解答が一定数あったが、下線は the results を示しているため、質問事項では「調査結果」にならないため、減点した。

問4

本問は、社会調査の回答者の一部は「環境汚染は黒人ではなく貧困層に対してより有害であると考える傾向にある」ことを理解できるかを問う英文和訳である。概ね大意は取れていたが、個々の

単語の訳が曖昧なものが散見された。たとえば、pollution を化学物質、communities を団体や社会組織と訳した解答などがあった。文脈に則して適切に訳すことが必要である。

#### 問 5

Some Americans think that 節と the only barriers facing minority racial groups という名詞句は、ほぼ正確に訳出されていた。主な減点対象となったのは、racial を「人種 (的)」と理解できていない解答などである。また、minority は数的な少数者とだけ理解し、社会的・政治的な少数派という意味に十分な理解が及んでいない解答が少なくなかった。

the only barriers facing minority racial groups に関しては、和訳として正確に訳出できていても、それがマイノリティの困難を「個人」の責任に帰す言説であるということまでを十分に理解できている解答は少なかった。訳が正確であれば減点はしないが、英文が示す内容とその背景を理解するための学習も期待したい。

#### 問 6

ア) は概ね良くできていたが、disadvantaged を「発達していない」「未発展」と訳したものが少なからず見られた。dis-が否定や対義を意味する接頭辞であることを踏まえると、advantage の対義語としては正確ではない。

イ) は、disadvantaged の評価基準に人種が考慮されない可能性があるという点が解答できていれば正解とした。「人種が虚構であること」や「人種を考慮することが差別につながる」といった文意にそぐわない解答が複数見られた。本文に則した解答が求められる。

## II

### 問1

先行する文にあるジブチ（国名）にかかる “the East African country” について「その東アフリカの国」と訳した回答は1人のみであり、ほとんどが「東アフリカの国／アフリカ東部の国」と訳出していた。「西アフリカの国」と訳した解答も目立ったが、おそらく “He was flown over from the East African country” の from に左右されたものと思われる。同じく「（飛行機で）…連れてこられた」を意味する was flown over from を「流れ（着い）た」、「逃された」、「売り飛ばされた」と訳出した解答も目立った。

また、「9歳のときに」と訳される aged nine の誤訳も散見された。“He was flown over from the East African country aged nine by a woman he had never met…” を、「建国から9年の国」や「9歳と年を決められた」と訳したのが見られた。

この文章の要となる “He was … then made to look after another family’ s children…”（そして他の家族の子どもたちの世話をさせられた）の訳はおおむねよくできていたが、この箇所を受動態を理解できていない解答も少なからずみられた。

### 問2

正答率は6割程度であった。日本語で簡潔に答えなさいと指示をしているのに、英語を抜き出した答案が散見された。contact details または relatives’、あるいはこの2点の単語がうまく訳せない答案が目立った。漢字の間違いも減点対象とした。

### 問3

おおむねよく解答できていたが、“he had to do housework” の housework を homework と誤読し、「宿題」と訳している答案が複数あった。

### 問4

ア) については、ほとんどの受験生が正解である「体育教師」と答えていた。「身体的教員」など、直訳的に訳した回答もあった。イ) については、体育教師であるワトキンソン氏の果たした役割について問う問題だが、“helped Sir Mo to be fostered…” の helped を使役動詞として理解できていない答案が散見された。

### 問5

満点の解答ができていたのは、1割程度であった。ポイントが「電話番号」であることを読み取れず、「テープ」に焦点を当てている解答が複数あった。前後関係を理解できていなかったのか、電話で連絡を「したこと」と書いた解答が散見された。

問6

“Sir Mo” の日本語訳を「シア・モー」としている答案がいくらかあった。“Never in my life did I think I would see you or your children alive,” を、「決して私の生活では私はあなたに生きて会いたいとは思わなかった」など、文意とは反対の訳をしている答案もあった。

問7

“a lot of people brought children…” の brought を、bought と間違えて、「子供を連れてきた」ではなく「子供を買っていた」と誤訳したものが複数あった。“saying that…” 以下の文章が理由を示しているのに気がつかず、「BBC の番組が7月13日に放送されたから」、または「彼女が事実を隠して入手した、市民権を剥奪するのを防ぐため」など、文章からは推測できない内容を理由として記した答案もあった。